

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		チャイルドサポートなは(児童発達支援)		公表日		2025年 2月 21日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	5	近隣の公園等も利用して活動を分けている	活動内容が固定化されないように工夫を取り入れていく	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	4	同法人に応援に来てもらい対応している	職員が長く働けるように会社を働きやすい環境にしている	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	6	児童が過ごしやすいように台を作り高さをカバーしている	児童一人一人に合わせた設備を整えていく。事業所スタッフが必要なものを感じ出来るように声かけて行く	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎週こまかい部分の掃除を組み込んでいる。	掲示物が多くある為整理整頓をする。片付いた状態を継続していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		個別で対応できる部屋が2つある。必要な時は個別対応で使用している	引き続き環境整備に努めます	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1	専門職によるアセスメントをもとにみんなで目標設定、支援を行っている	未経験のスタッフもいるため、スタッフ育成をすることで個々の専門性もさらに深めていく	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		頂いた意見にはスタッフ同士で改善案を話し合っている	アンケート結果をもとに事業所の改善点として掲げ、柔軟に対応していく	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		月二回責任者との面談日を設けている	面談から改善へと繋げている。対面以外でも意見がだせるように工夫が必要	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5	評価内容を確認、共有し、改善にむけて話し合っている	改善対策を施行し、再度評価を実施することで質も高めていく	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		学びたいことをあげて外部講師に研修を依頼している	参加率が少ない。面談の際に研修の必要性を伝え目的を持って参加してもらうようにする	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		共有し、公表したホームページも確認してもらっている	公表しているが見直し出来る機会も作っていく	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	1	専門職によるアセスメントをもとに目標設定、支援を行っている	アセスメントがとれるスタッフに偏りがある為統一してアセスメントがとれるようにツールを活用していく	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		現場スタッフの話をきき計画へと反映している	十分な時間を確保したうえで聞き取りを行っている	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		会議後、計画作成後は共有し、支援を実施している。計画内容もすぐ確認がとれるように支援記録へと記載している	計画に沿った支援をスタッフに意識してもらうために活動前には計画も確認していく	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		専門のスタッフがアセスメントを把握しておりそれを他スタッフへとおろしている	アセスメントツールの不使用だったため、統一したアセスメントがとれるように使用していく	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		会社全体で家族支援は特に力を入れており、家族支援について考える機会が多くある	それぞれの支援に対する理解を深めていく必要がある。社内勉強会のテーマにして学んでいく	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	4	活動の振り返りをチームで行い次回の活動へと反映できるように工夫している	支援プログラムの内容について学びながら、プログラム作成を行ってきたい	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	同じ活動にならないように曜日や、利用児童に合わせてプログラムの作成をしている	土曜日の活動内容に偏りがある時もある。地域イベントの参加や課外活動も取り入れていく	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		個別活動(自立課題、自由遊び、製作)、集団活動(運動活動、リズム遊び)を組み合わせた計画を作成し、支援を行っている	活動前には集団、個別それぞれどのようにかわっていくか決めている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	3	朝礼後に送迎や利用児童の確認、一日の業務内容を話し合っている	会議や送迎の時間に追われて支援のことで話せない事もあるため必ず話し合う事として時間をとっていく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2	業務終了までにスタッフ同士共有の時間を設けている	共有するだけでなく、必要なことはノートを活用し文字で残していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		手書きの記録を用いる事で空いた時間に記入出来るようにしている	その日で記録がとれないことがあるため工夫して時間を確保していく
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	1	児童の計画の振り返り、情報共有は当日に話している	児童によってモニタリングの頻度が変わるため、全員が定期的に行えるように管理していく
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		状況をよく理解した職員から現状の様子、今後の計画を聞き取り、会議に参加している	児発管が参加しているが、現場スタッフも一緒に参加できるように調整していきたい
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		相談員から関係機関との連携を繋いでもらっている	引き続き連携していくために情報共有を密に行っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		担当者会議や、お迎え時の先生と情報共有や支援内容を聞いたりしている	スタッフ個人での確認で終わっていることも多いため、連携した取り組みとするために事業所内でも共有までを徹底する
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		担当者会議がもてるように相談員と連携している	担当者会議開催だけでなく、日々の情報共有をしていく。様子だけではなく意思伝達時や見えるかに使用しているもの等を聞き、統一していきたい
	28	(28~30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		事業所に見学してもらい取り組みや環境をみてもらい、センターでの様子も聞き取った	見学に来てもらっていたが減っているため、今後も連携をとっていく
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		8	公園等で一緒に遊び、関わる機会を作っている。地域イベントに参加	交流会を今後予定にしていきたいと思います	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎の時間に児童の様子を共有し合っている	送迎時の短い時間だけではなく交流会や面談日を設けてより話せる時間を確保していく。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		外部講師の研修を定期的に開催している	参加率が少ない。なるべく多くのご家族に参加してもらえるように年間行事にて予定を伝え、目的や児童に沿ってそれぞれ必要性を説明することで参加を増やす	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		見学、契約時に説明書類を確認しながら説明している	引き続き説明書類と一緒に確認しながらわかりやすい説明をしていきます	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		モニタリングの際に家族の意向を確認し、反映している	子どもの意思をさらに反映できるように、日々の支援での様子や表情からも児童の想いを考えるようにしていく	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		作成した計画の説明を行い、内容を確認して頂き同意を得ている	引き続き、丁寧な説明を行ったうえで同意を得られるようにします	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		利用している児童だけでなくご兄弟、ご家族についての会話から助言等に繋げている	必要、希望に応じて行っていたため、随時対応が可能なことを、伝えていく	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2	うらそえの事業所と合同でクリスマス会を開催した。保護者、利用児童、スタッフとの交流の場を設けた	保護者、兄弟同士で楽しめるレクの開催頻度をふやしていく。年間行事を作成することで、より沢山の交流会に参加してもらえるようにしていく
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		申し入れがあった際はその日に対応できるようにしている	うまく活用されていないので気軽に相談にきてもらえるように定期的に案内、声かけて行く
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3	5	インスタ、ブログを用いて発信を行っている	不定期な更新となっているため、定期的に情報発信が出来るようにしていく
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		データ等は会社のものを使用する。入職前に説明している	誓約書にて誓ってもらっているが慣れると個人の判断が出てくるため個人情報の取り扱いには定期的に説明をしていく必要がある。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		保護者と意思疎通や情報伝達の方法について共有し、1人ひとりに合ったコミュニケーションを図った	今後もそれぞれに合ったコミュニケーション方法に配慮をしていく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7	地域イベントに参加している	まずは地域イベントに参加することで地域交流を増やしていく
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		会社全体で委員会を設置し、訓練を会社で取り組んで行っている	マニュアルを作成と実施しているが周知が出来ていない事もあった。ブログも用いて発信していく
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		会社全体で訓練内容を決めている	実施しているが周知が出来ていない事もあった。ブログも用いて発信していく
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		契約時のチェックシートで確認を必ず行っている	引き続き確認もれがないようにチェックシートを用いて確認をしていく
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	必要に応じて対応していく。基本はご家庭から持参する弁当、お菓子を摂取している	必要に応じて対応していく
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画を基に消防設備点検・感染症自主点検・環境整備等、安全管理に必要な点検と訓練を行いました。また、送迎所に降り忘れ防止装置を設置し、職員、児童と訓練を行った	繰り返し訓練を行う事でマニュアルや対策をよりよくしていく
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		計画について説明する機会を設けた	必要時には連携できるよう保護者会等で詳しく説明をしていく。参加出来ない人もいるので送迎時間等を利用していく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		事業所内にて発生時は対策を話し合い、一か月取り組んでみての振り返りまでしている	全スタッフが確実に内容と対策を把握するための措置が必要
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		年二回研修を開催 事業所内研修でも虐待の芽について話し合い、児童の権利について学ぶ	日頃からスタッフ同士の声掛けや関りかたを客観視し、良くするための話し合いをする
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	1	年二回研修で理解を深めている	やむを得ない時の例で説明をし、身体拘束があった際はその日に報告をしている。	